



きれいな学校 輝く笑顔 ~J(授業) A(挨拶) S(清掃) MI(身だしなみ) N(仲間)~

# 大久保中だより

〒338-0815 さいたま市桜区五関282

Tel 048-852-3554 Fax 048-840-1430

Mail Address : okubo-j@saitama-city.ed.jp

## 「のぼうの城」に感動！ 埼玉再発見、これからも郷土を愛し、大久保魂を育もう

校長 新井 敬二郎

「豊臣軍にケンカを売った、でくのぼうがいた。」「この男の奇策、とんでもないッ！」映画「のぼうの城」見てきました。いやあ、爽快、痛快ですね。原作を読んだ時、おもしろくて、たった一晩で読み終えてしまったことを覚えています。埼玉県(古くは武蔵国)は、過去に歴史の大舞台になったことがなく、いつも寂しい思いをしてきました。映画になったのも秩父事件を取り上げた「草の乱」以来で久々の快挙だと思います。



石田三成が、水攻めを指揮

あらすじは、安土桃山時代の忍城(おしじょう)。主人公である領主・成田



忍川沿いに今も残る石田堤

長親は、領民から「でくのぼう」を略して「のぼう様」と呼び親しまれる人物。表情に乏しい背の高い大男で、のそのそと歩く。当主の従兄弟であるのに、家臣はおろか百姓らからも、「のぼう様」と呼ばれる。運動は滅法苦手で、馬にさえ乗れない。けれども百姓・足軽等、身分の低い者達からは非常に慕われており、百姓達も長親の為ならば命を掛けることさえ厭わない。天下統一目前の豊臣秀吉は、関東最大の勢力北条氏の小田原城を落城させんとしていた(小田原征伐)。その最中、「武州・忍城を討ち、武功を立てよ」秀吉にそう命じられ、石田三成は戦を仕掛けんとする。城は簡単に落ちるはずだった。だが軍使長束正家の傲慢な振る舞いに怒った総大将・長親は「戦」を選択する。三成率いる二万超の軍勢に、農民らを含めても二千強の成田勢。総大将たる長親は、将に求められる智も仁も勇も持たない、その名の通りでくのぼうのような男。だがこの男にはただ一つの才能、異常なほどの民からの「人気」があった。三成は、近くを流れる利根川を利用した水攻めを行うことを決定し、総延長28キロメートルに及ぶ石田堤を建設する。しかし、長親を慕う農民の破壊工作もあって水攻めは成功しない。結局、小田原城落城時までもちこたえた支城は忍城だけだった。



石田三成が本陣を構えた丸墓山古墳(円墳)

映画鑑賞後、現在の行田市を歩きながら歴史の舞台を訪ねてみてはどうでしょうか。行田には、国宝「金錯銘鉄剣」が出土した稻荷山古墳、忍城水攻めの際に石田三成が忍城を望むことができる山頂に本陣を構えたとされる丸墓山古墳など埼玉古墳群があります。また、石田堤も忍川沿いに約280メートル残っています。

さて、みなさんに、大久保地区にもすばらしい歴史があるので紹介しましょう。

- 5世紀後半から7世紀にかけて、白楡地区(大久保古墳群)などに古墳が造られ、現在も残っている。
- 南北朝時代以降、大窪郷という集落があったとされ、現在の「大久保」の地名の興りとなったとされる。
- 鎌倉時代、大久保地区を鎌倉街道が通じており、現在も県道215号線等として残っている。またこの街道が入間川(現：荒川)を渡る地点が羽根倉であり、こちらも「羽根倉橋」等に名を残している。
- 1350年(観応元年)、観応の擾乱に応じ羽根倉の戦いが起こり、足利尊氏方の高麗経澄が足利直義方の難波田九郎三郎らを破る。